



報道関係者 各位

2026年5月18日
東京外国語大学

世界諸地域の文化・社会の理解を深める無料上映会＋解説／トーク付き
報道の先にある、イラン社会の日常と「詩」の力
イラン映画『捨てられたものたちの詩人』上映会開催

東京外国語大学（東京都府中市、学長：春名展生）は、2026年7月4日（土）、TUFs Cinemaにおいてイラン映画『捨てられたものたちの詩人』（原題：Shā'er-e zobāle-ha）の上映会を開催いたします。

本作は、日本でも著名なモフセン・マフマルバーフが脚本を手掛け、2006年のタジキスタン国際映画祭で最優秀賞を受賞するなど、国際的に高い評価を得ている作品です。不況下のテヘランで、詩人を夢見ながらも清掃員として働く青年の淡い恋と希望を、イラン社会に漂う閉塞感や人々の残酷な人生と対比させながら描き出しています。

上映後には、ペルシア文学やイスラーム研究を専門とする3名の気鋭の研究者を迎え、検閲下の製作背景や、イラン社会における「詩」の役割といった作品の深層を読み解くトークセッションを実施します。

1. 開催概要

日時：2026年7月4日（土） 14:00 開映
（13:40 開場、16:30 終了予定）

会場：東京外国語大学
アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
（東京都府中市朝日町 3-11-1
西武多摩川線「多磨駅」徒歩 5 分）

内容：

- ・本編上映：『捨てられたものたちの詩人』（77 分）
- ・上映後解説／トーク
木下 実紀（京都大学白眉センター 特定助教）
- ・企画・解説：村山 木乃実（本学アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニアフェロー）
- ・司会：後藤 絵美（本学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授／イスラーム・ジェンダー研究専攻）

入場料：無料

事前登録推奨（定員を超える場合は事前登録者を優先）

詳細情報：

https://www.tufs.ac.jp/event/2026/260704_c01.html



<次ページへ続く>

<本件に関するお問い合わせ>

東京外国語大学 広報・社会連携課（担当：高坂）
TEL：042-330-5151 FAX：042-330-5140 E-mail：koho@tufs.ac.jp



2. 作品について

- ・ 作品名：『捨てられたものたちの詩人』
(2005年/イラン/77分/ペルシャ語/英語・日本語字幕/原題 Sha'er-e zobale-ha)
- ・ ストーリー：詩人を目指しながらも清掃員となった主人公が、ゴミを集める日々のなかで一人の女性に恋をし、匿名で手紙を送り続ける姿を追います。不器用ながらもまっすぐに生きる彼の無邪気さと希望が、観る者に勇気を与えます。
- ・ 特徴：イラン国内の検閲下で製作されたため、曖昧かつ詩的な表現が随所に用いられており、イラン社会と「詩」の密接な関係を映し出しています。

TUFS Cinema Tokyo University of Foreign Studies **イラン映画上映会**



7月4日(土)
14:00上映開始 (開場13:40、終了予定16:30)

上映後解説 / トーク
木下 美紀 (京都大学白眉センター 特定助教)
司会 後藤 絵美 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授)
企画・解説 村山 木乃実 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニアフェロー)

共催 東京外国語大学TUFS Cinema
TUFSフィールドサイエンスコミュニティ(TUFSco)
協賛 2026年度白眉プロジェクト研究員(イラン人ティエイスラボによる文学の体系的研究) | 研究員(後藤 絵美、木下美紀)
協力 東京外国語大学多言語多文化共生センター

入場無料 事前登録はコチラ
<https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc260704form/>
※事前登録がなくても会場にただくことは可能ですが、事前にご登録いただくことスムーズにご入場いただけます。
定員を越える場合は、事前登録を済ませた方を優先させていただきます。

【お問い合わせ】
東京外国語大学 広報・社会連携課 (TUFS Cinema担当)
TEL 042-330-5441 (平日9:00-17:00、12:00-13:00は除く)
Email tufscinema@tufs.ac.jp
詳細はTUFS Cinemaウェブサイトにて <https://www.tufs.ac.jp/tufscinema/>

Hakubi

上映日
2026年7月4日(土) 14:00上映開始(13:40開場、16:30終了予定)

イラン映画上映会
捨てられたものたちの詩人

監 督: モハンマド・アフマディー (Mohammad Ahmadi)
脚 本: モフセン・マフマルバーフ (Mohsen Makhmalbaf)
出 演: ファルズイン・モハッデス (Farzin Mohades)
モハンマド・エスキャンダリー (Mohammad Eskandari)
ザーレ・アフル (Zaher Abari)
レイラ・ハザミ (Leila Hatami)
編 劇: モハンマド・アラード・パシュ (Mohammad Aladpoush)
音 楽: ダレル・ナザロフ (Daler Nazarov)
受賞歴: 2006年 第2回タジキスタン国際映画祭 最優秀賞
2006年 第36回モロコイス国際映画祭
(ウクライナ・キエフ) エキキュニカル賞

あらすじ
主人公は、大学に進学し詩人になることを目指していたものの、不況が続くなかでその夢は叶わずにいます。そして彼がようやく手にした仕事は、なんと清掃員でした。秋から冬へと季節が変わる、寒としたペルシアンでゴミを集める日々のなか、彼は、年輩した詩人や、婚約者を持った一人の女性と出会います。やがてその女性に恋をした主人公は、彼女を助そうと、匿名で手紙を書き送り続けていきます。果たして、不器用な主人公の淡い恋の行方はどうなるのでしょうか...?

2005年/イラン/77分/ペルシャ語/英語・日本語字幕
原題 Sha'er-e zobale-ha

本作について

本作では、主人公を通じて、イラン社会に漂う閉塞感や、そこで暮らす人々の複雑な人生が描かれています。

一方で、それらと鮮やかな対照をなすのが、主人公の無邪気さと希望です。不器用ながらもまっすぐに生きる彼の姿は、見どころの一つです。その姿は、時に可笑しく(や時代錯誤的な描写もありますが)、勇気も与えてくれます。タジクスミュージシャンのダレル・ナザロフの曲は、彼の感情を露骨に表現しています。

また本作は、イラン国内の検閲下で制作されたために、曖昧かつ詩的な表現が随所に用いられています。特に、本作を眺みゆく上では、イラン社会と詩の関係が鍵となります。これらについては、上映後トークで解説していきます。

日本でも有名なイラン映画監督モフセン・マフマルバーフが脚本を務めた本作、ぜひお楽しみください!

上映後解説 / トーク
木下 美紀 京都大学白眉センター 特定助教
後藤 絵美 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 准教授
村山 木乃実 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 ジュニアフェロー

交通アクセス



◆新中央線 武蔵境 駅のりかえ 西武多摩線(有明 多摩線 駅下車 徒歩5分) | JR新国府から徒歩約4分
◆京王東横線 府田駅 北口より多摩線行き京王(八丁)まで約30分 | 東京外国語大学前(下車)

入場無料 / 事前登録制
<https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc260704form/>

上映作品のブローチャー

【TUFS Cinema に関するお問い合わせ先】

東京外国語大学 総務企画部 広報・社会連携課 (TUFS Cinema 担当)
TEL : 042-330-5441 (平日 9:00-17:00 ※12:00-13:00 を除く)
Email : tufscinema@tufs.ac.jp

<本件に関するお問い合わせ>

東京外国語大学 広報・社会連携課 (担当: 高坂)
TEL : 042-330-5151 FAX : 042-330-5140 E-mail : koho@tufs.ac.jp